

平成 19 年度第 10 回大磯町教育委員会定例会会議録

1. 日 時 平成 20 年 1 月 23 日 (水)
開会時間 午前 9 時 30 分
閉会時間 午前 10 時 49 分
2. 場 所 大磯町役場 4 階第 1 会議室
3. 出席者 石 塚 洋 委員長
清 田 義 弘 委員長職務代理者
澤 愛 子 委員
原 田 義 彦 委員
福 島 睦 恵 教育長
二挺木 洋 二 教育次長
簗 島 信 雄 学校教育課長
竹 内 浩 教育指導担当主幹
福 島 伸 芳 生涯学習課長兼郷土資料館長
戸 村 豊 茂 図書館長
長 岡 克 昌 学校教育課副主幹
4. 傍聴者 なし

(開 会)

出席委員が 5 名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項の規定により定例会は成立し、大磯町教育委員会会議規則第 14 条及び第 19 条の規定により傍聴を許可するが、傍聴人がいないため、引き続き会議を進行する。

(前回会議録等の承認)

委員長より前回会議録の項目を読み上げ、出席委員全員の承認を得る。

教育長報告

教育長) 私からは、12 月定例会が開催されました平成 19 年 12 月 19 日から本日まで教育委員会諸行事等について報告させていただきます。

1 月 8 日、大磯中学校におきまして 3 学期の始業式の後に創立 60 周年記念式典を兼ねて体育館耐震改修工事の落成式を開催いたしました。

1 月 10 日・11 日の両日、大磯一周駅伝大会の開催に向けて、役員・責任者・監督打ち合わせ会議を開き、安全な大会運営等について打ち合わせを行いました。

1月14日は大磯プリンスホテル国際会議場におきまして、成人式を開催いたしました。今年度の対象者は350名で、288名の新成人の方が参加され、出席率は82.3%となっております。

また同日、国指定重要無形民俗文化財行事である左義長が行われ、早朝より大磯中学校の生徒約90名がサイト作りに協力しておりました。地元区長さんからはお礼の挨拶が学校にあったようです。

10月21日から開催しておりました郷土資料館の企画展「町中の自然のウォッチング」は1月14日に終了し、開催期間中9,011名が来場されました。

1月17日湯河原町で開催されました町村教育長会研究会に出席いたしました。

1月20日25チームが参加し、役員等多くの皆様の協力を得まして、第54回大磯一周駅伝大会を実施いたしました。大会結果については、お手元に記録一覧表をお配りしましたが、総合優勝・地区優勝が中丸チーム、団体優勝が生沢鷹取RCチームでした。

1月21日県平塚合同庁舎において開催された中地区教育長会議に出席いたしました。

諸行事の報告につきましては、以上でございます。

議案第12号 平成20年度教育委員会当初予算要求について

書記が議案を朗読し、教育長から提案理由の説明を行った。

教育次長) 各担当課長よりの説明の前に、平成20年度の教育費の総体的な予算につきまして説明いたします。今年度の要求につきましては、教育費の総体額が778,535千円でございます。

前年度との対比につきましては、マイナス265,457千円ということで、この理由といたしましては、大磯中の体育館工事と月京幼稚園整備工事がなくなったものでございます。

参考資料としまして、お手元に教育費性質別予算推移ということで資料を作成しましたので、この資料について説明させていただきます。まず教育費を大きく3つに分けております。職員人件費、正式に決算統計上ですと教育委員の報酬なども人件費に入りますが、今回は職員人件費ということでまとめさせていただきました。それと投資的事業、これは工事・大きな備品の購入ということで投資的事業。その他はそのほか経常経費ということで大きく3つに分けて資料を作らせていただきました。

平成20年度につきましては、人件費が426,464千円ということで、右側のカッコが教育費に係る構成比ということで、20年度は職員の人件費が56.4%という数字となっております。投資的事業は34,139千円ということで、4.4%ということで、その内訳については、担当課長より説明いたします。その他の経常経費ということで、304,776千円で構

成比として39.2%という数字になっております。

過去5年間の表を作りましたが、投資的事業につきましては、その年度によって額が大きくなったりしますので、おのずと職員の人件費等の構成比が下がってくるという状況でございます。簡単ではございますが、教育費の総体の説明とさせていただいて、各個別については担当課長より説明させていただきます。

学校教育課長) 学校教育課の関係の補足説明をさせていただきます。

議案資料の1ページをお開きください。まず、予算科目の項 教育総務費でございます。要求額200,124千円、前年度予算額188,084千円、比較いたしますと、12,040千円の増でございます。

主な事業等の要求内容は、右側の内容説明欄1から9までの内容でございます。対前年度に比べて要求額が増の理由は、事務局人員の増のためなどです。

次に小学校費でございます。要求額139,058千円、前年度予算額130,983千円、比較いたしますと、8,075千円の増でございます。

事業説明欄④の新規事業、「1学年を35人学級編制にするため、非常勤講師を配置する」費用につきましては、新年度に就学する児童数を勘案しまして、1校分、非常勤講師1名分を要求いたします。その他の事業内容は、記載のとおりです。

要求額の対前年増につきましては、校務整備員を幼稚園からの異動により常勤職員対応とするなど、人件費の増があるためです。

資料の2ページをご覧ください。中学校費でございます。要求額64,822千円、前年度予算額134,678千円、比較いたしますと、69,856千円の減でございます。

事業内容の1から7までは例年どおりですが、新規事業としましては⑧「国府中学校校舎耐震改修工事設計委託」を要求いたします。前年度比減の理由は、大磯中学校体育館耐震改修工事の終了によるものです。

最後に幼稚園費でございます。要求額164,076千円、前年度予算額386,147千円で、比較いたしますと、222,071千円の減でございます。

新規事業としては⑥国府幼稚園の耐震改修工事の設計委託料を要求いたします。

前年度比減の理由は、月京幼稚園整備事業費の減です。学校教育課関係は以上でございます。

生涯学習課長) 社会教育費として、20年度、最終的な要求額として、35,690千円、前年度予算額21,185千円、比較いたしますと、14,505千円の増となっております。

増となる主な理由といたしましては、放課後子ども教室の実施、生涯学習館の駐車場等の整備、文化財の観光的案内板設置、以上の3本を新規事業として増とするものでございます。

右側の要求内容でございますが、1点目から11点目までにつきましては、事業ごとに経常経費の多少の増減等がございますが、今年度と、ほぼ

同様な事業展開をしていきたいと考えております。

このなかで、予算的な措置はございませんが、生涯学習館の利用について、平成21年度からの使用料徴収に向け、料金設定の検討等を行いたいと思っております。

また、今年度、建造物の国登録に向けた調査委託を実施しておりますので、この実施結果をもとに、国登録への候補物件について、国あるいは県へ意見書等を提出したいと考えております。

12から14までは、20年度、新規での事業費を要求しております。まず、12点目ですが、放課後子ども教室の関連でございます。

具体的には、小学校の体育館、校庭、空き教室を利用して、放課後での子どもの安全な居場所を確保しつつ、学年を超えた交流、地域との交流などを図りながら、地域のボランティアを招き、子供たちが様々な体験ができる場を作りたいという特色をもって実施したいと思っております。

事業開始の初年度となるため、準備等の関係から平成20年9月より大磯、国府小学校同時スタートと考えております。

次に、13点目については、国のまちづくり交付金の補助を受け、生涯学習館の駐車場の整備等を行い、また、周辺散策用に自然をテーマとしたパンフレットの作成を考えております。

最後、14点目につきましては、同じくまちづくり交付金の補助を受け、西部地区を中心とした指定文化財が所在する場所に、観光色を出した案内板を作成、設置をし、周知啓発等を図っていききたいと思っております。

続きまして、下段の保健体育費の関係となります。

20年度要求額9,100千円、前年度予算額17,249千円、比較しますと、8,149千円の減とする要求をしております。

その主な理由といたしましては、生沢プールが施設の老朽化、プール下での地盤の沈み、高圧線下での施設などの理由により、教育委員会で20年度は休止の方向性が出たためによる事業費の減でございます。

なお、体育指導委員の運営事業で、ニュースポーツの普及を図るため、ユニカールという体育備品を、20年度新たな購入を要求しております。

その他については、要求内容のとおり事業ごとに経常経費等の増減は多少ありますが、今年度と同様の事業を図っていく要求をしております。

郷土資料館長) 続きまして、郷土資料館関係の予算になります。社会教育費、20年度要求額54,050千円、前年度予算額51,922千円、比較しますと、2,128千円の増とする要求をしております。

その理由といたしましては、隔年で実施しております収蔵資料の保存処理のための燻蒸委託により増とする要求をしております。

なお、要求額54,050千円のうち約64%が正規職員4名分の人件費となっております。右側の事業の要求内容でございますが、経常経費等の増減は、多少ございますが、今年度と同様な事業展開を考えております。

なお、7点目に、郷土資料館は、昭和63年に開館して20年となります。これを記念して、過去の寄贈品、寄託品等の資料を中心とした特別展示を3回程度開催したいと考えており、これに係る経費を、今年度より増

として要求しております。

郷土資料館としましては、この20周年の記念展示等で、大磯町の郷土を資料により、さらに多くの方に知っていただきたいと考えております。以上でございます。

図書館長) 図書館につきましては、要求額111,615千円、前年度予算額113,744千円となっており、比較2,129千円の減となっております。主な事業内容につきましては、記載項目をご覧いただきたいと思っております。

減額の主なものですが、図書館運営事業につきまして、昨年地下書庫の整理要員として臨時雇いを措置したわけですが、概ね整理が終わり、通常の臨時雇いの状態に戻しますので減となるものでございます。また、図書館資料整備事業につきまして、今述べました地下書庫の整理に関連しまして、移動式書架を設置したわけですが、20年度はありませんので、減となるものでございます。他に町史編さん事業でございますが、町史につきましては、現在町史7・通史編近現代を作成中ですが、20年度におきましては、ダイジェスト版の発行となりまして、本編に比較しましてページ数等も減りますので、校正料・原稿料などの筆耕翻訳料が減となることによるものでございます。

以上が減額の主なものでございますが、新規事業といたしまして、⑨町史内資料の整理と目録化として、20年度で町史刊行が終了しますのでそれ以後の資料整備ということです。⑩子ども読書推進事業として、子ども読書推進計画に基づき現在策定中ですが、この関連で子どもの読書活動を推進する意味での事業内容でございます。⑫投資的事業といたしまして、公用車購入事業を予算要求いたしましたので、全体として前年度予算比較、2,129千円の減となるものでございます。

(質疑応答)

清田委員) 先日教育研究所に伺ったのですが、以前は教育支援員のような形でボランティアの方がやっていたのですが、今適応教室に通う子どもが6人位いるとのこと。所長が週1回お休みがありますので、そうすると専任教諭が1人になってしまうことがあります。その時に相談業務が入って対応していると、子どもたちの学習指導をするのが大変な状態になってしまいます。私もやってきてそう思うのですが、以前はお手伝いしてただける方がいたように思うのです。現在、緊急のときは指導主事も対応しているということで、何か支援していただけるような方がいたらと思います。どういう形が良いのか分からないのですが、是非何らかの対応ができるようお願いしたいと思います。

教育指導担当主幹) 適応教室の生徒が増えているということで、ボランティアの方が週1回は見えてくださるような形でやったり、指導主事が指導ということで行ったりしていることもあります。予算的には支援員的な方の予算化をして雇うことができませんので、今までと同じような形で対応するしかないかと思っております。ボランティア的な方については、人選等も難しいかと思っておりますが、そういう方をできるだけお願いしたいと思います。

委員長) 清田委員の質問の中での支援員という方は、前回の打ち合わせの中で今年度確保しなければいけない26名の方々のことですか。

教育指導担当主幹) その支援員は、学校とか幼稚園でお願いする方たちのことです。

清田委員) できるだけ善処して、ボランティアの方々でも結構ですのでお願いしたいと思います。

澤委員) 学校関係で目に付くものとしては、小学校の④のところの1年生の学級を35人編成にするために、人員を新たに増やして35人学級編制を実施するところだと思えます。

財政的に厳しいので全てが引き締められている予算の中で、積極的な教育の施策として、大磯町としては、こういう学校教育をしていきたいということが見えるような予算であってほしいと思います。

そんな中で35人学級編制は、金額としては僅かですが、姿勢として出ているということと、こういうものをこれきりで終わりにするのではなく、今後推し進めていくという姿勢を見せてもらいたい。

国も県も、同じ方向を向いていると思えますので、どうしても予算が縮んでしまう中で、こういうところは積極的に謳って、子どもたちを伸ばすためには、行き届いた教育をしていかなければいけないので、町としても予算的な努力を惜しまないでやっていって、教育委員会だけでなく、予算の責任部署もはっきり見える形を示して、教育を大事にしているということを積極的に出していってもらいたいと思います。

それから教育の実施には、予算と共に人手がかかります。世の中効率主事の時代ですが、人を育て教育するには経済効率主義で押し通すことは無理であり、教育現場では生身の人間が直に対応することこそ必要です。

一方、町では町職員の削減が行われており、それが教育関係にも及んでいるために、資料にもあるように町立幼稚園の正規職員の先生が減っています。町職員のスリム化に私は賛成いたしますが、子どもたちの数がここ数年顕著に減っていないにも拘らず先生方の数を減らすことは、町としての教育義務放棄にもつながります。保育園との関連は理解しておりますが、この点の改善は当委員会の任務でもあり、町部局にも強くお願いしたい点です。

教育次長) 来月、20年度の教育方針ということで案をお示ししたいと思います。その時に当然予算とマッチングしたような形にしたいと思います。今委員がおっしゃったように、大磯町としての教育の施策の一步として新たにやっていきたいという文言を入れていきたいと思います。

原田委員) 教育費の予算が8億を切って7億台になってきたということで、全体的なことを伺いたいのですが、一般会計予算の歳出はどの程度かということと、前年度比はどうなっているのかということ。それと特別会計の中で額として大きいものは下水道かと思いますが、その額が大よそどれ位か。それが前年度に比してどれ位になっているのかお伺いしたいと思います。

そういう中で町予算に占める教育費の比率がどの程度か知りたいのですが。

教育次長) 一般会計につきましては、まだ多少の入れ替わりがあるということで、正

式に固まるのが2月上旬だと聞いております。概ね80億円を少し上回る程度の予算規模になると聞いております。教育費に対する比率については9.7%程度ということです。

特別会計については、詳しく分からないのですが、特別会計については新たに後期高齢者の会計ができて、老人保健会計という75歳以上の医療費の会計がございますが、その辺の調整があります。19年度の予算では特別会計で96億ありましたが、80億程度ということです。

特別会計については後期高齢者医療という新しい制度と老人保健会計ということで、ある程度推計の部分で予算を組んでいると聞いております。

委員長) 昨年度の一般会計はどの位でしたか。

教育次長) 8,535百万円が当初予算でございます。下水道事業に対する高利率の借金を返すということも含んでおりますので、一般会計の方も投資的事業の伸びがないのかということです。細かい確定数字は2月ということで聞いておりますが、財政課の方からは概ね予算規模は80億ということです。

委員長) 財政課のヒアリングの後の減額の大きいものは、月京幼稚園の件と大磯中学校の体育館の工事が終わったというのが理由の大半ですね。今年度20年度の目玉はこれだというのが、一つでも二つでも増やしていきたいですね。

教育次長) 今年度の予算については、ハード的については国府中学校の改修を始めるということで、11月にはグラウンドの整備もということでお話をさせていただきましたが、総合計画の予定どおりということになっておりますので、校舎の設計から入っていくということでございます。

ソフト事業の目玉としましては、35人学級の編制ということ。生涯学習課の方では放課後子ども教室を試行的にはなりますが実施していく。図書館の方では子ども読書推進事業を進めていくというようなことで、各課等で一つ位の事業を目玉として進めてまいります。

澤委員) 教育費の割合が9.7%ということで、やや下がったように見えますが、投資的事業費が殆どなくなっているというか、改修と月京幼稚園が大きな原因だと思うのですが、町全体の施設も老朽化の問題があると思いますが、学校関係も老朽化の周期に来ていると思われれます。財政が厳しいからといって次へ次へと先送りしていったら適切に改修をしていかないと、問題がずれていくことが心配です。

今年度が少し減ったというだけのことを認めたとしても、月京幼稚園の関係はそれとは違うわけで、極めて現実的に早く実施していかなければいけないと思います。町民に対する説明責任があると思いますので、よく事情を説明して、必ずやる手立てを説明できるようにしておかなければ大きな問題になると思います。

委員長) 体育館の改修工事のときにも議会で色々質問がありましてけれども、「集中と選択」をきっちりやるためには、優先順位をしっかりと作っておく必要があると思うのですね。それについては我々も認識しておきたいと思えます。時々刻々と優先順位が変わるかと思えますけれども、そのときの優先順位をきちっと整理しておきたいと思えます。

原田委員) 国府中学校のグラウンド改修については、20年度予算から外れたという

ことですが、11月の時にはやろうという話で進んでいたと思います。生沢プールについては、20年度は利用しないということで聞いております。何となくトレンド的に生沢プールの移転というか、別の場所に作るというようなものが、今回の最終要求という段階では将来的に担保されていくのかどうか、非常に心配になってくる部分があります。生沢プールについては、来年度計上でないにしても、将来担保されていて計上されるのかということが、今回の予算の対応において心配される場所があります。

教育予算については一つこういったもので、町としては全体的に対応していくという考え方を持っておいていただきたいと思います。また財政当局というか、そういうセクションにお願いしておきたい部分でもあります。

教育次長) 国府中学校のグラウンドにつきましては、教育委員会としては近隣の方の要望ですとか、学校関係の要望でできるだけ早期にということ、財政の方をお願いしましたが、財政課では全体的な総合計画の財政計画とのバランスで少し無理があるということで話をいただきました。生沢プールにつきましては、確かに予算的な担保がなく、どうなるのかという話でございますので、教育委員会としては、町長が20年度予算に合わせて20年度の取り組みの施政方針を出します。その時に生沢プールについては来年度に内部的な生沢プールの今後の整備検討委員会を立ち上げていただいて、進めていきたいと思います。予算措置はないのですが、文章的な担保付けをとっていきたくて考えております。

委員長) 国府中学校のグラウンド改修もそうですし、生沢プールも停止、という苦渋の選択したときには、大磯町の子どもたちに水泳くらいはできるような子どもに育てなければいけないという感が強かったわけですから、是非この項目についても頭の中に入れて進めていきたいと思います。できるだけ早い時期に新しいプールができるように努めていきたいと思いますので、事務局もよろしくお願いします。

澤委員) 生涯学習課の社会教育費のところ、項目の12から14に新しいものが出ておりますが、それぞれソフト面を含めて積極的にやってもらいたいと思います。これから益々社会教育ということ、大人が学びながら年を重ねていくということが、地域としては重要なことです。その時に子ども居場所作りなど、子どもも含めて地域全部で見守っていくことにも繋がっていくことになっていきますので、この子どもの居場所作りなどは、国の施策で始まることではありますけれども、大変結構だと思います。大磯などはうまくやればとてもやりやすいところですし、うまくいくのではないかと思います。細分化するのではなく、包み込んでいくような、行政全体で、横につながってやっていく、縦にもつながってやっていくことが必要な時代だと思います。これなどはその先駆けになると思いますので、広く協力をして、予算のことではなく、これによって何か良い核ができていく、色々な広がり広がっていく可能性を感じますので、是非頑張って予算確保と共に、実施の方も力を入れていただきたいと思います。予算的には13・14は交付金を貰って少しお金としては手をかけるということだと思いますが、いろいろ整備しなければいけないことがありますので、整備の仕方

によっては町の住民の協力関係とか、町の活性化につながっていくと思いますので、この辺りは力を入れていただきたいと思います。

郷土資料館については、いつも少ないお金でよく頑張っておられるというのを感じております。けれども中々来てくださる方が少ないのが誠に残念に思います。予算が少し増えているのも殆ど燻蒸委託のお金だそうですから、20年度は郷土資料館開設20年目という一つの節目なので、これを機会に利用を高めて、他所から来ていただく切っ掛けに活用していただきたいと思います。今までは郷土資料館は頑張っておられるのだと思うのですが、大磯町の場合は色々な施設が離れていますので、図書館・郷土資料館・生涯学習館だけでも、教育委員会の中だけでも離れている不便さと、利点も多分あるのだらうと思います。その辺をうまく活用していただいて、更に県との関係ですけれども城山公園・旧吉田邸、それと町のものである運動公園や万台こゆるぎの森などはうまく連携利用していけば、正に生涯学習や子どもの教育や地域の活性化につながります。今言いました後の部分などはエリア的には郷土資料館の周囲なのですが、人員も少ないですから、館での本業をやっているだけで手一杯なところもあると思います。中々連携するまでには至らないので、事務局も協力して広い範囲で持てるものを活用していくようにして、それを取り入れて20周年の時にやっていただければ、広がりを見せていくのではないかと思います。お金は少しでも活用できる部分が増えてくるのではないかと思います。しかしながら同時にハード面で20年経っていると壊れている所なども増えているのではないかと少し心配です。今回は十分に予算は取れていないと思います。設備関係の改修も取れていないのは郷土資料館のハード面の課題だと思います。その予算を次に獲得するためにも、ソフト面で非常に活用されている。地域に役立っているということを理解されることが重要です。実際にはやっているんだけど、それを皆さんに利用してもらえている部分が少ないのではないかといつも残念に思っております。利用してもらえるように20周年をいい機会に使っていただきたいと思います。

生涯学習課長) まず放課後子ども教室については、来年度の新規事業ということで、取りあえず9月から実施します。財政課や理事者との話し合いの中で試行的にやってみるということでスタートするわけですが、確かに委員おっしゃるとおり国の旗振りでスタートしたわけですが、今日、地域との交流が中々難しいということで、これを機に来年度は試行ですが、学校でもふれあい教室ですとか地域と実施をしているので、それらと連携しつつ生涯学習の立場から推し進めていきたいと思います。

生涯学習館につきましては、先程説明したとおり21年度は使用料を取りたいという考えでございます。使用料を取るには施設の方も整備しなければいけないということもありますので、来年度はまちづくり交付金の補助を受け、これで整備し、散策用のパンフレットを同時に、高麗山のハイキングコースがありますので、ここを起点として作成しながら、より多くの方に使っていただきたいと考えております。

郷土資料館につきましては、来年20周年ということで、予算的には少な

いのですが、来館者の増を図るために考えていきたいと思います。先程出ました城山公園と旧吉田邸の一体化ということで、旧吉田邸の関係で23年度から全面公開ということで、建物は町が管理するような形になっております。そこで城山公園と郷土資料館の一体化ということを考えておりますので、今後郷土資料館と町部局で管理方法などを検討していくのですが、その中で分館的な考えも出てくるとと思います。旧吉田邸との一体化でさらに来館者が見込まれるということで、その時に施設の改修というか、常設展示も当初から変えておりませんので、それを機に施設の老朽化の改修も含めて考えて充実させていただきたいと思います。

委員長) 生涯学習館・郷土資料館ともども「大磯らしさ」を発揮できるところではないかと思っておりますので、新規事業といえますか、それ等を積極的に取り入れていっていただきたいと思っております。

原田委員) 保健体育費なのですが、年間予算が9,100千円ということになるかと思っておりますが、前年度が17百万円で、ほぼ半減しているということですが、これは生沢プールの運営費の関係と理解してよろしいでしょうか。この9,100千円、1千万円を切る金額なのですが各種イベント・スポーツイベントにおいて9,100千円で大丈夫なんでしょうか。

生涯学習課長) 体育関係につきましては、確かにイベントとか体育協会への補助金等が主になっております。イベントにつきましては、ボランティア的な方に協力していただくことがかなり多くなっておりますので、今年度とほぼ同様の予算規模ベースで、事業はできるのではないかと考えております。ボランティア的要素が高いことですので、皆さんの協力が無いとできませんので引き続きお願いしていきたいと思っております。

委員長) 減った分が生沢プールの件が大きいのであれば、簡単に返上するのはいやですね。

原田委員) 保健体育費というのは、スポーツ振興事業に使おうという費用がこの予算科目になってくると思いますが、果たして9,100千円で大磯町内のスポーツ振興を図れるのか、少し疑問に思う部分もあります。将来的にそういった部分を振興していこうということであれば、それぞれ人の気持ちというものもあるでしょうから、恒常的にこういうものを振興していくためには、必要最小限これだけは確保しておかないといけないというものも出てくるのではないかと思うわけです。

教育次長) スポーツ振興関連で来年度から運動公園の管理が指定管理者になりましたので、財団法人の公園協会とベルマーレスポーツクラブというところが合同の指定管理者になりますので、教育委員会としましてはその指定管理者と連携を図って、スポーツ振興を町だけでやるのではなく、民間もスポーツ振興に携わってもらおうということで、正式に契約すればその辺を協議していきたいと思っております。町だけでなく民間も一生懸命そういったスポーツ振興に携わってほしいと思います。例えばチャレンジフェスティバルをやっておりますが、その辺をどのように民間とやっていけるのかと、そういうことも考えていきたいと思っております。

澤委員) 今のと関連なのですが、スポーツ振興ということであれば年に1回チャレ

ンジフェスティバルをやるとか、駅伝をやることは大変結構なのですが、一回の行事をやるということではなくて、日常的にスポーツに馴染むということだと思っておりますが、そういう点で折角あれだけ立派な運動公園がある中で、そういった面では十分活用されていないと思います。

一方、生涯学習館でも色々な教室をやられているわけですが、それと同じように運動公園で、できない人も参加できて、新しく学びながらやれるようなものを民間では考えるのではないかと思います。それを教育委員会が連携するということはとても結構なことだと思います。

委員長) 来年度は是非アイデアを募って、具体的なイベントというか作戦を立てて予算化したいものですね。

原田委員) 今のことに関連して、ベルマーレと申しましたが、指定管理者になるのはサッカーチームのベルマーレということですね。

教育次長) サッカーはサッカーでベルマーレの会社がありまして、NPO のベルマーレスポーツクラブというところです。ベルマーレはソフトボールも強いですし、色々な競技に取り組んでいますので、平塚などもベルマーレの主催でマラソン大会などもやっているようですので、色々な分野のスポーツをやっているようです。

清田委員) 民間と一緒に連携するとなると、ある程度予算的なものも必要になってくるのではないかと思います。今年度はこれでいいとしても、次年度には少しその辺の民間とのタイアップをするための予算化も必要ではないかと思っております。是非スポーツ振興に向けて頑張っていただきたいと思っております。

委員長) 次に図書館の方に進みたいと思っております。図書館に関してご意見ご質問よろしくお願ひします。

清田委員) 先程の郷土資料館もそうなのですが、中央監視システムについては、やらないということで、また次年度へ先送りということだと思います。図書館の方も前回の時に不審者予防のためのフェンスなどもやるという話があったのですが、これでは削られています、他で対応していくということですか。

図書館長) 事前に要求はしたのですが、門扉の設置の位置とか、その位置よっての返却ポストの位置とかをもう少し考えたらどうかということで、その位置よって不審者が溜まっていて、利用者が返却ポストまで行かれないという状況も少し出ているので、ただ単に門扉を県道沿いに設置するというのを考えていたのですが、それですと返却ポストへ入る場合の通路の確保と県道と通路との位置関係もありますので、その辺をもう少し考えたらどうかということと、それに加えて全体的な施設の関係も考えて、少し先延ばしにしたということです。あと植栽の関係ですが、やはり町の木ということで、伐根・伐採していいものかということで、もう少し考えるようにということで、今回査定されております。

委員長) 問題提起されたときには、図書館が閉館になった後などに広場がたまり場になってしまう。何かがあったら困るということでした。その問題は解決する糸口をあまりお金を掛けなくて出来るのではないのでしょうか。チェーンを張るとか、立看板を立てるとか、あそこの広場は折角良い広場なので

名称をつけて「この広場は何時から何時まで」とか表示して、広場に入ってくるのが防げるような気がします。そんなところも検討していただけたらありがたいと思います。

図書館長) 今取りあえずバリケートを設置しまして、今までは自転車の置き場のところにバリケートを設置していたのですが、それを前面に出しまして対応しております。

委員長) 返却ポストの側はそのまま出入りできるようにして、左側をチェーンか何かで塞ぐなどしたらどうかと思います。

澤委員) ただ今の件で、図書館の建物や広場も含めて、全体のデザインは設計者が温かみがあって、オープンな感じのものを作っているわけです。それを閉じてしまうような、柵のようなものを夜間だからといってやるのは、その設計の良いところを削るような格好になると思います。その辺を悪くしないような方策を考えていただきたいという点と、もう1つはソフト面で、金沢市の施設で若い人が同様に夜騒いだりしたことがあったそうで、その時は柵などでシャットアウトするのではなくて、その人達とよく話し合っ、彼らが反省し、自分たちでルールを決めて問題解決したそうです。大磯図書館の話がある町民の方にしましたら、そんないきなり野暮なことは良くないといわれ、金沢の例を話してくれました。言われるとおりでと思います。

大磯の場合は職員が夜回ることもできませんし、遊びに来るのが町外の子が多いということもあるようですから、その辺は人情的作戦といいたいでしょうか、それも合わせて考えていただけたらと思います。

図書館長) 正にそのとおりでと思います。ただ単にフェンスをやるということを考えるのではなくて、そういった考えを出してやっていきたいと思います。

原田委員) 先程館長の説明にありましたサザンカにつきましましては、サザンカが町の木ということで、前回も出たと思うのですが、町の木を変更するとかという動きはないのでしょうか。虫の害があまりにも大きいのですね。サザンカが町の木に指定された頃というのは、各家庭でも町の木だからということで植栽したりしていたのですが、やはり季節になると非常に蛾が多発しまして、その防虫をするだけでも、近くの子どもたちが触ってしまうかどうかまで考えてやらなければいけない状況なのです。図書館に植えられているサザンカについても同じような状況だだと思います。そのあたりは町の方では動きはないのでしょうか。

教育長) 部長会議であるとか、政策会議とか色々会議はありますが、そういう中で今委員のご指摘の町の木等の変更の話は聞いておりません。

教育次長) 教育委員の方から意見があったということで、お伝えしておきます。中々行政の方から見直そうというのは難しいので、町民の声で、こういうことは見直したらどうかということでない、行政の方からは中々動かないと思いますので、そういう意見があったということで、担当の方へ伝えておきます。

澤委員) 地球の温暖化も多少影響しているようなので、もしそういうことであれば変更の一つの理由に入れておけば、勝手な申出というようなものではない

と思います。

委員長) サザンカに代わる推薦の木を2・3上げていただきたいと思います。それでは色々ご意見をいただきましたが、まだまだ確認したいこともあるかと思います。今回の予算は当初、我々が原案の説明を受けてから20%ダウンの金額になるということで約7億円ということです。厳しい予算ですが、「教育の町・大磯」と町長がおっしゃっていることが変わったと言われないような予算編成をしていきたいと思います。各委員も含めて、アイデアをどんどん出して頂いて、スタッフと一緒に大磯町教育委員会に相応しい予算になるように進めていきたいと思います。それでは、議案第12号について採決に入ります。ご異議ありませんでしょうか。

委員全員承認する。

委員長) 議案第12号については、原案どおり承認いたします。

報告事項第1号 平成19年度大磯町教育研究所年度末講演会について

教育指導担当主幹) 大磯町教育研究所年度末講演会につきまして、ご説明させていただきます。資料をご覧ください。

日時は、平成20年2月15日、金曜日でございます。時間が14時から15時50分まで、会場は、国府小学校図書室・ランチルームとなっております。講師は、星槎大学准教授の^{きん} ^{てふん}金 泰勲さんです。

内容といたしましては、「外国籍県民に係る人権について」でございます。

この講演会は、大磯町教育研究所と大磯町立学校PTA連絡協議会が共催しておりますので、幼稚園、小中学校の教職員とPTAが参加いたします。以上でございます。

(質疑応答)

教育長) 人権擁護委員の方にはご案内は出しているのですか。

教育指導担当主幹) 人権擁護委員6名の方に案内をお送りいたしました。

委員長) 前々回でしたか、人権擁護委員の方からミニレターの件で問い合わせがあった件で、後ほどの会合で竹内主幹からご報告をいただいたということで、教育委員会の方からデータと説明をいただいたということで、大変喜んでおりましたので、今回も声を掛けられたら喜んで頂けるのではないかと思います。

教育指導担当主幹) 今の件ですが、委員長の熊沢様のところへ直接伺いまして、資料を説明いたしまして、他の委員の方にもお渡しくださるようお願いしております。

報告事項第2号 月京幼稚園訪問について

教育指導担当主幹) 2月の月京幼稚園訪問につきまして、ご説明させていただきます。

プリントの資料をご覧ください。2月の月京幼稚園訪問の趣旨は、保育、施設、設備等を参観し、さらに職員との懇談を通して、幼稚園の直面する問題点を把握し、教育行政に反映し、町の教育行政の充実に役立てるものでございます。

日時は2月20日、水曜日、教育委員会定例会後、13時15分から15時20分で、日程は資料のとおりでございます。保育参観後の懇談では、石塚委員長にごあいさつをお願いいたします。懇談の最後は清田委員長職務代理者をお願いいたします。

なお、月京幼稚園としての今年度の研究主題は「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付くようになるためには、どのような環境の構成や教師のかかわりが必要か」です。懇談の中で、話題としていただけたらと考えております。以上でございます。

(質疑応答)

委員長) 前回、月京幼稚園を訪問したのはいつでしたか。

教育指導担当主幹) 隔年で実施しておりますので、2年前になります。

その他

教育次長) 次回開催の平成19年度第11回については、2月20日、水曜日、時間は9時30分、場所は大磯町郷土資料館研修室で行います。平成19年度の第12回につきましては、3月26日、水曜日9時30分、大磯町役場4階第1会議室で行います。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成 20 年 2 月 20 日

委 員 長 _____

委員長職務代理者 _____

委 員 _____

委 員 _____